



Zero, start, sea bass fishing book

<実釣編>

【ご注意ください！】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意ください。

このレポートの著作権は齊藤真吾に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を

いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等
することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記に記載された
事項に同意したものとみなします。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を
いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等
することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った場合、その他の不法行為に
該当する行為を行った場合は、関係法規に基づき
損害賠償請求を行う等、民事、刑事を問わず
法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートの情報は作成時点での著者の見解等です。
著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、

見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、

万が一誤り、不正確な情報等が有りまして

著者及びパートナー等の業務提携者は一切の

責任を追わない事をご了承願います。

このレポートを利用することにより生じた

いかなる結果につきましても、著者及び

パートナー等の業務提携者は一切の責任を

追わない事をご了承願います。

【推奨環境】

このレポートに記載されているURL はクリックできま
す。

できない場合は最新のAdobeReader を下記のページより
ダウンロードしてください。（無料）

[http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep
2.html](http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html)

目次

- ・はじめに
- ・クリンチノット
- ・リーダーとPEの結び方
- ・キャスト
- ・リーリング
- ・ファイト

- ・ランディング
- ・リリースorキープ
- ・ライトラブルはなぜ起こるのか？
- ・パターン各種
- ・同じ星に住む者として

はじめに

Zero, start, sea bass fishing book、

マインド編に始まり、準備編を読破されて

ついにこの**実釣編**にたどり着かれましたね。

長い文章をお読み頂きありがとうございます。

そして、本当におつかれさまでした。

今までにあなたがこの、

Zero, start, sea bass fishing bookで

身に付けてきた知識はシーバスフィッシングを

効率よく上達させていくために

とても重要な基礎知識となっています。

あなたがこれからシーバスフィッシングを

楽しんで行かれる上で軸となる

知識、考え方をマスターして頂きました。

ですが、これからシーバスフィッシングを

していく中で、プチスランプなどの
壁にぶち当たる事もあると考えています。

そんな時、またこの伝説のバイブル、
Zero, start, sea bass fishing bookを
ふらっと読み返してみてください。

そうすれば壁をぶち壊してその先に進める、
そんな唯一無二のバイブルになっています。

さて、お疲れのところ申し訳ないのですが
これから、あなたに**最後のルーツ**を読破して頂きます。

こちらの実釣編はフィールドで読みながら
しっかりと技術として落とし込んで頂けると
いい感じのバイブルとなっています。

現場で読みながら基本を
あなたの身体にインストールしてくださいね。

それでは、いきましょう！

クリンチノット

あなたがフィールドに出て、

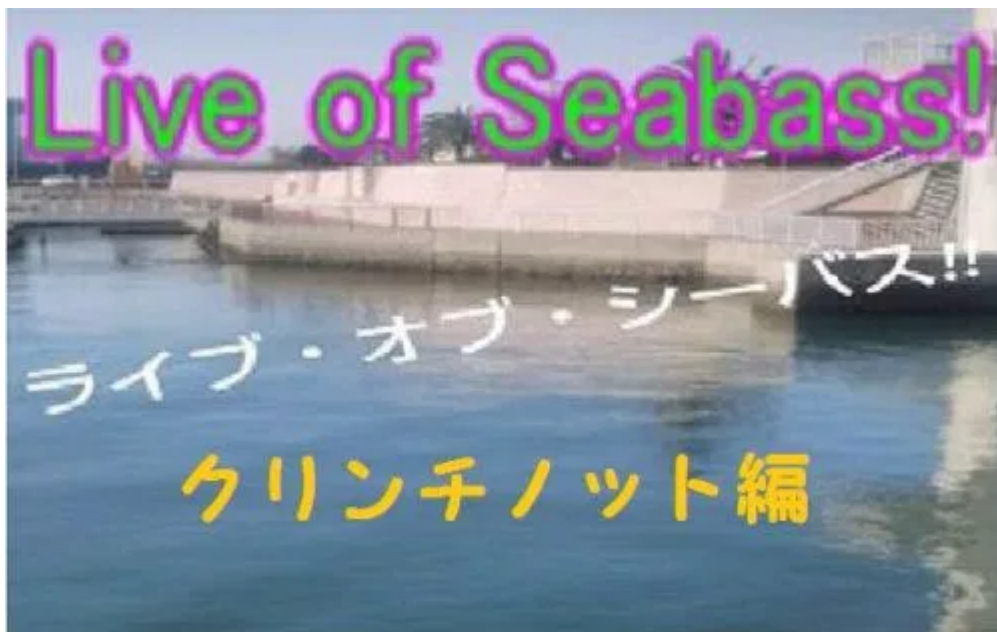
ゲームベストを着込んでタックルを取り出し

一番最初にやる事は、**ラインシステムを組む事**です。

数回程度では絶対に身につけられませんので

諦めずに何度も何度も練習してみてくださいね。

そうすれば、気づいた時には出来るようになってます。



クリンチノットとは？

簡単で結束強度が強く、

いろいろな結び方の基本になっている手法。

自分で仕掛けを作る人に

この結び方を知らないという方はまず居ません。

私達、ルアーフィッシングの分野でも

使用頻度は高いので

しっかりと解説させていただきます。

【最初は誰でも覚えにくい】

ここではクリンチノットの解説を致します。

私も初めて見た時は、

「なんだこれ、複雑すぎてわけわかんない?!」

と思いました。

もしかするとあなたも

そう思うかもしれません。

ですが、**とりあえずやってみませんか？**

やってみると、

なんとかなるって事は多いですね？

これもそのひとつ。

私は一回では覚えられませんでした、

数回やったら覚えてしまいました。

あなたも多分、簡単に覚えてしまうでしょう。

結構、一回で覚える人も居ますから。

【では、さっそく】

用意するものは、ラインとスナップ。

ラインとは釣り糸の事。

私達シーバスフィッシングで言えば

ほぼPEラインと呼ばれる

不透明な編みこみラインの事です。

あくまでここでは練習のために

PEを使いますが、シーバスではリーダーと

スナップを結束する時に使います。

スナップとは、

こ・れ・だ！↓↓↓↓↓↓↓↓



準備が出来ましたら、

まず右手にスナップ。

左手にラインを持ちます。

これは、どちらの手でも問題ありません。

あなたがやりやすい方の手を使ってください。

次は、スナップの小さいほうの穴に

ラインを通します。

そして通したラインを折り返します。

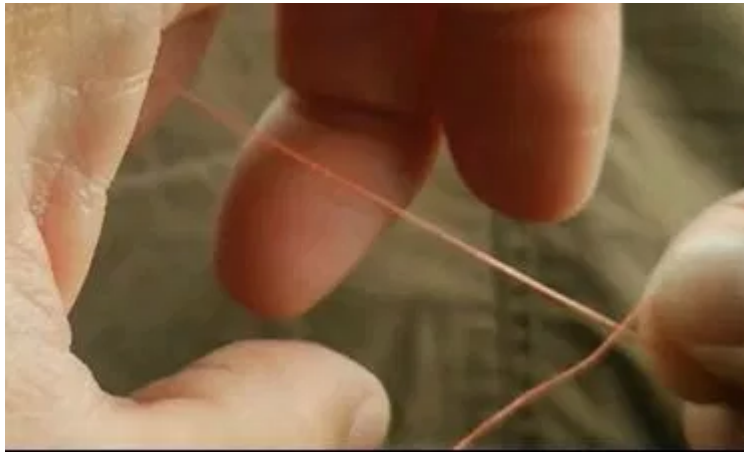


これが出来たら次は

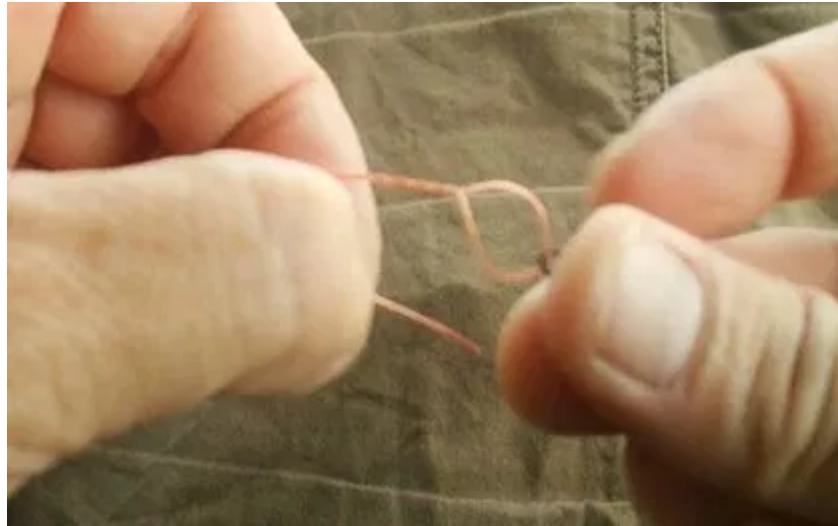
スナップの小さい方の穴とラインを

指でつまんで固定します。

この時、指でつまんだラインのところに
後からラインを通せるくらいの
輪っかを維持してつまんでください。



次は、ラインの短い方、
つまり先ほどスナップに通したラインの
さきを長い方のライン、
つまりメインラインと呼ばれる
リールから出ている方へ
くるくると巻きつけていきます。



「あっ、どっちもメインラインですね。」(^_^;)」

「ま、いっか・・・。」

この時、**しっかりと巻いていくのがポイント**です。

そうですね～、

イメージで言うと大昔のこままわしで

コマ本体に紐を巻きつけて回すヤツ、

有りましたよね？

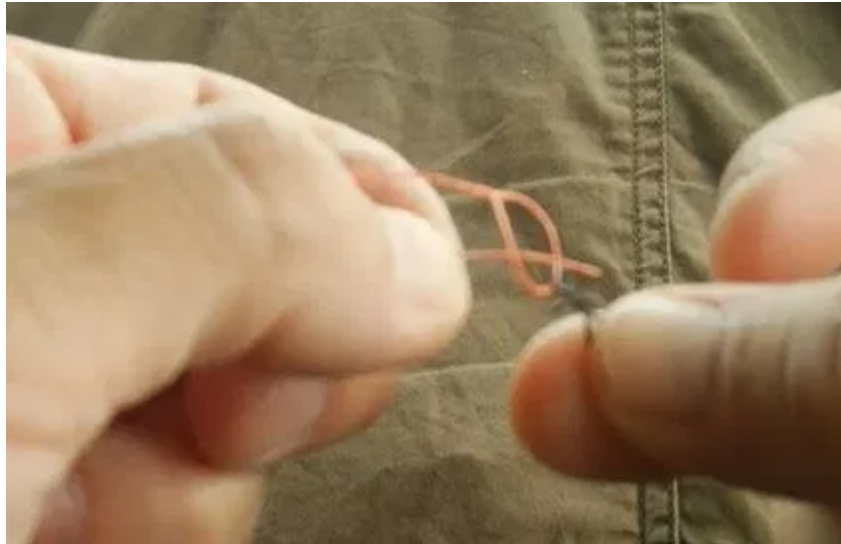
ちょうど、あの紐を巻く時の

丁寧さと同じですね。

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓



綺麗に巻けたら次は短い方のラインを折り返して、
先ほど維持しておいた“指で摘んだ穴”に通します。



ここまで来たら、

結び目全体を水で湿らせてください。

ここから結び目を締め込んで行くんですが、
PEラインというのは“摩擦”に極めて弱く、
湿らせてあげないと締め込んだ時の摩擦で
切れてしまいます。

ですから、この工程は必ず行ってください。

では次は締め込み。

先ほど維持していた“指で摘んだ輪っか”を離して、
短い方のラインを摘みます。

それを適度に引っ張りながら

長い方のラインを引くと

どんどん結び目が閉まっていきます。

この時の長い方のラインと

短い方のラインの引っ張り加減は

実際にやりながら覚えてください。



後はしっかりと締め込めば完成です。

今回、分かりにくいため

映像での解説をしています。

やりながら見て覚えてくださいね。

<https://youtu.be/MGc5W1wrGM8>

以上、クリンチノットの解説でした。

次はPEラインとリーダーの結束方法です。

リーダーとPEの結び方

本来はFGノットやPRノットと呼ばれる
いわゆる摩擦系ノットという結束方法を
使うのが一般的ですが、

かなり難易度が高く、現場で行うのは難しく、

ツールが必要だったりするので

ここでは**簡易式の結束方法**を

解説させていただきます。

そして、本気でやりたいと思ったのなら

摩擦系ノットが必ず必要になりますので

それまではこの簡単な結束方法で

ノットを組むという事に慣れてみてください。



シーバスを始めるあなたへ。

リーダーとPEラインの結束法、

簡単なノットのやり方があります。

この結び方は構造上、すっぽ抜けがありません。

FGノットの代わりとして使ってください。

なお、これは細いリーダーに向いています。

太いリーダーには不向きで

太くなればなるほど向きません。

リーダーなんて使った事がないという人向けの

簡単で覚えやすい結び方です。

シーバスフィッシングにはリーダー結束法の習得が

必要不可欠ですので、今回もしっかりと

わかりやすく解説させていただきます。

【なぜ、リーダーが必要なのか？】

同じルアーフィッシングの中に

バスフィッシングというものがあります。

あなたも多分ご存知ですね？

バスフィッシングで

PEラインを使う人はあまり見かけません。

なぜでしょうか？

これにはいくつか理由があります。

PEラインは不透明で水の中で

透明なラインにくらべて目立ってしまうんです。

次にPEラインの最大の弱点。

摩擦にものすごく弱く、
ラインにテンションをかけた状態で
物に接触すると一発で切れます。

ゆえに、バスフィッシングのように
ルアーを障害物めがけて
キャストするようなタイトな釣りには
向いていません。

そして、PEラインの利点。

引っ張り強度に優れ、直径が細い状態で
太いナイロンラインなどと同じ強度がだせる事。

そしてラインの重量が圧倒的に軽いという事。

これはつまり軽いラインを
細い状態で使えるということです。

この特徴により、
圧倒的なルアーの飛距離を生み出す事ができます。

ですが、バスフィッシングではほとんどの場合、
ルアーの飛距離を必要としません。

なぜなら、障害物というのは
陸から近い場所にあることが多いから。

つまり、ラインブレイクの危険を犯してまで
飛距離を求める必要がないのです。

【シーバスフィッシングは？】

これとは反対に**シーバスフィッシングではルアーの飛距離を必要とします。**

シーバスももちろん障害物には付きます。

ですが、**フィールドの規模がいちいち広大で釣れるポイントが遠い場合がほとんどです。**

そのうえ、結構酸素を必要とするため、水中の酸素濃度が高い**“流れ”**に付いている場合がほとんどです。

この流れがなかなか近いところにはないんです。

つまり、ルアーの飛距離を出すために

PEラインが必要。

でも、シーバスは障害物の脇に居たり、

釣られると障害物に逃げこんだりします。

ということは、先ほど説明したとおり、

PEラインだけでは障害物などに接触して

簡単に切れてしまいます。

そもそも、口に歯も付いてますしね。

歯があると、この歯に

ラインがスれて切れる事もあるんです。

そこで、考え抜かれた結果、

「PEラインにフロロカーボンなどの
別のラインを繋げちゃえ！」

って、いう話になったんです。

ここで何度も何度も工夫を重ね、

先人たちの知恵によって編み出されたのが**“FGノット”**。

今回は**この簡単な結び方**です。

ですが、FGノットとは機構が違うので

別物と認識しておいて頂けると幸いです。

シーバスフィッシングを

始められるあなたにとっては

おそらくココが一番の難所になるでしょう。

FGノットが出来なくて挫折したり

諦める方も結構みえます。

ですが、この結び方なら大丈夫です。

この結束法は細いリーダーを推奨していて、

強度16ポンドまでがオススメです。

なぜなら、リーダー本体を折り返すために

太ければ太いほど

結び目が大きくなるからです。

【それでは、いきましょう】

まず、PEラインを適当なところで折り返して、
ダブルラインを作ります。

ダブルラインとは2本束ねたライン。



次にこのダブルラインを
小指に三回ほど巻きつけます。



そうしたら今度はダブルラインを
親指と人差指で広げて持ちます。



次にもう片方の手でリーダーの先を折り曲げて
指で摘みます。

そして、この摘んだリーダーの表と裏で
先程のPEラインを親指と人差指を上手く使って
編みこんでいきます。



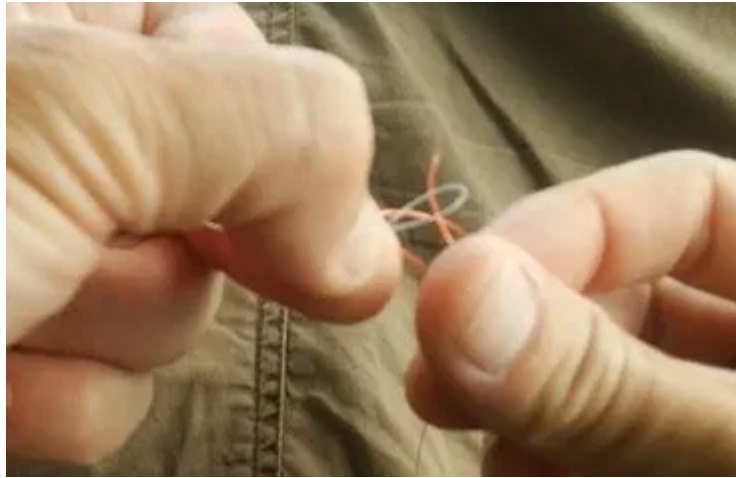
7~8回ほど編みこんだら

PEラインを持っていたほうの手をほどいて離します。

このとき、**編みこみ部分はリーダーを持つ手で**
しっかりと固定したままです。

そして、**PEラインの短い方を**

リーダーの輪っかに通してください。



ここまで来たら、

結び目を水などで湿らせてください。

そして、リーダーの短い方を摘んで
PEラインを2本とも引っ張りながら
しっかりと締め込んでいきます。



次にリーダーの長い方を摘んで

2本のPEラインを引っ張り

本締めをします。



最後にリーダーの短い方を

出来るだけギリギリにカットして

PEラインの短い方を3ミリほど残してカットします。

そして、短い方のカットしたPEラインの先を、

他のラインを焼かないように

100円ライターで焼いてください。

何故かと言うと、PEラインと言うのは

編みこんで作ってあるために、

何度もキャストしていると先がほつれて来ます。

するとそのうち、

結び目自体もほどけて来ますので、

結束部でラインが外れてしまう事があります。

これを防ぐためにPEラインの

先を溶かしてほどけないようにするんです。

以上で完成です。

今回も分かりにくいので

映像での解説をしています。

やりながら見て覚えてくださいね。

<https://youtu.be/v-UaksI1ia4>

キャスト

さて、ではいよいよ

実際にルアーをキャストしていきます。

まずは、**キャスト準備**から。



【ニュータックルを持って】

タックルも手に入れて釣り場に出かけたら、

まずは**どこでキャストするのか**を決めます。

そうですね～、

出来るだけ人目に付かない怪しい感じの

場所がいいですね～。

なぜなら、

キャストミスをしてるところを人に見られると

超恥ずかしいから。

私の場合は、ですけどね。

今はなんとも思いませんが始めた当初は・・・、

いや～、アレは

恥ずかしかったですね～。

そんなわけで、

人目が気になるというのなら

頭の片隅にでも置いておいて下さい。

「そんなのかんけーね～、そんなのかんけーね～」

というのなら、

- ・自分の後ろにロッドを振りかぶれる

間合いがあるかどうか？

- ・そして頭上、又はルアーを

投げる方向の上に電線などが無いか？

- ・ルアーを引いてくる水面、

又は水中に障害物があるかどうか？

を確認してフィールドを選んでください。

【次にタックルの準備をします】

ロッドにリールをセットして

リールのベールと呼ばれる

リングみたいなヤツを手で返します。

下の画像のようにして下さい。



そうしたら次は、**ガイド**と呼ばれる

ロッドに付いている輪っかがいくつありますか？

こういうヤツです。

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓



このガイドと呼ばれるリングに

大きいリングから小さいリングへと順番に

ライン（糸）を通していきます。

ロッドの先端からラインが出たら

そのラインを少し引っ張って余分に出し、

そのメインラインにリーダーと呼ばれる

シーバスを掛けた時に

ラインブレイクするのを防ぐ

太いラインを結束します。

そしてリーダーにスナップと呼ばれる
接続金具を結び付けます。



最後に、先ほど起こしたボールと呼ばれる
リングみたいなヤツをもとに戻します。

と、ここまでで準備はほぼ完了です。

【大切な事】

ここからは快適に練習をするための方法です。

練習に使うルアーを選択します。

これが結構、大事。

一番いい方法はトップウォータープラグと呼ばれる、

ほったらかしでもルアーを引いても

沈まないルアーを使う方法です。

準備編でご紹介した、TDソルトペンシルが

トップウォータープラグにあたります。

「そんなの知らない！持っていないよ！」と言うのなら

フローティングミノーと呼ばれる

ほったらかしなら浮いているけど
引いてくると潜行を始めるルアーを。

沈むヤツしか持っていないならそれを使います。

そして、ここが一番大切。

**練習に使うルアーのフック、
つまり釣り針を全て外してください。**

ルアーのフックは通常、スプリットリングという
小さな輪っかです。

これをスプリットリングプライヤーという
道具を使って外します。



外し方については

この輪っかは日常生活でも

よく見かけるものなので

おそらく見れば分かると思います。

何故、こんな面倒な事をするのか？

なぜなら、ルアーをキャストミスして

変な方へ飛んで行くと、

そこに何かあった時に釣れてしまうんです。

さらにキャストした時にラインが絡まると、
それをほどくまでルアーはキャストした地点で
完全放置となります。

この間に例えば、
水流に流されてどこかに引っかかったり、
底まで沈んでいって地球が釣れる
といった惨事が起こります。

こうなると、せっかく買った
大事なルアーを無くす事になります。

そして、初めての釣行に結構あるのが、
キャストミスをして

自分を釣ってしまうという事があるのです。

これは非常に痛い上に

ルアーフックには**“かえし”**という

矢尻みたいな物が付いていて、

一度刺さると簡単には抜けません。

それがまだ自分ならいいのですが、

もし近くにジョギングなどをしてる人が居て、

間違っってその人に刺さったら・・・、

しかも、刺さった場所がもし目だったら・・・。

これはくどいくらい言いますが、

ルアーフィッシングというのは

オモリの付いたトリプルフックに
簡単には切れない糸を付けて
振り回しているのと同じ事。

私からのお願いです。

コントロール出来ないうちはフックを外して下さい。

あるいは完全に人が居ないのを

確認してから練習してください。

ルアーをロストしないためにもね。 \(\^^)／

【まずは確認すること】

それでは実際にキャストの解説に入ります。

釣り場、つまりフィールドが決まって

タックルのセットが完了したら

いよいよキャスト開始です。

最初にイメージして欲しいのは

いきなり遠くへ飛ばそうとしない事。

5m、10m、15m、20m、30m、40m、と

いう感じで**徐々に遠くへ投げるように**

練習してってください。

こうする事でトラブルによる

甚大な被害を避けられます。

どういう事かという、

まったく初めての状態でおもいきりキャストすると、

まあ普通は確実に失敗します。

最悪の場合、ロッド（竿）が折れたり、

そうでなくても地面や岸壁にルアーを叩きつけて

割ってしまったります。

こうなると悲しいので少しずつ

キャスト距離を伸ばして行ってください。

【それでは早速いきましょう】

その前に、ちょっと説明を。

今回のキャストイング方法は

ルアーフィッシングの全てのキャストの基本となる、

オーバーハンドキャストという

キャストイング法です。

実際にシーバス専用ロッドでキャストする時は、

また違った方法でキャストする事になります。

ですが、

このオーバーハンドキャストを
マスターしていないと、
シーバス専用ロッドでキャストする時に
ルアーのコントロールを外します。

そして、ヒドいと失敗してルアーがなくなったり
ロッドが折れたりします。

ですから、まずはこの基本中の基本でもある
オーバーハンドキャストを
完全にマスターして頂けたらと思います。

そうすれば、他のキャスト法も
簡単にコツをつかめるようになるでしょう。

さて、実際にどういうものかというと、

オーバーハンドキャストとは

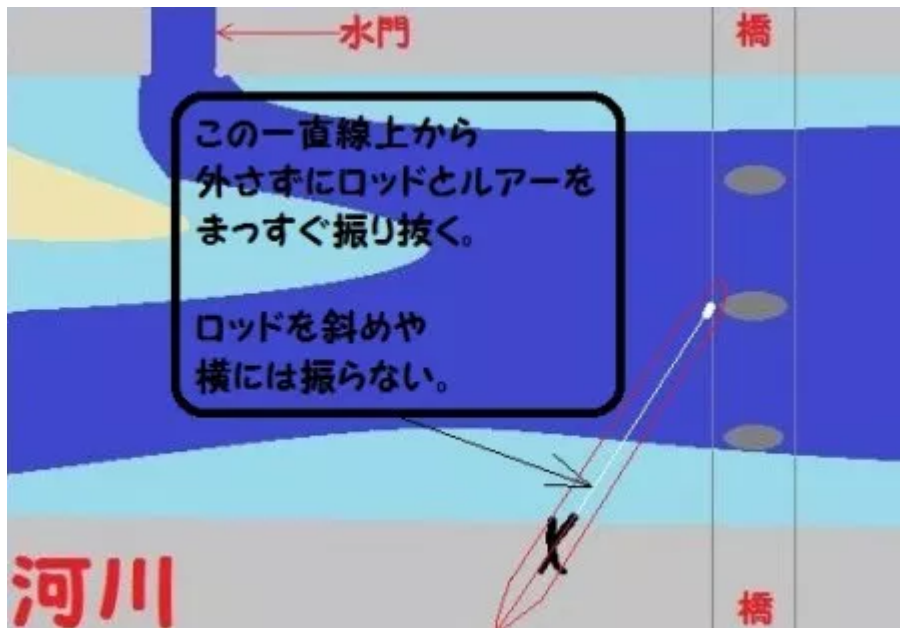
あなたの頭の真上、

もしくはそこから少し横にズレた支点から

ポイントに対して一直線上に振り抜く、

狙いを横に外さない事に特化したキャストです。

下の画像を見てください。



このようにオーバーハンドは

ポイントに対してまっすぐに立ち、

ポイントとあなたを結ぶ直線上でしか

アクションをしません。

そのため、ルアー、ロッド、竿先の全てが

あなたの頭の上あたりを通り、

横から風が吹くなどの力が掛からない限りは

横に飛んで行く事は理論的にありません。

これがオーバーハンドキャストという、

全てのキャストの基本となる

最初に覚えるべきキャスト法です。

では、いきますよ。

まずは飛距離を無視します。

最初にベールと呼ばれるリングみたいなヤツを

起こしてください。

するとリールからラインが出てルアーが下に落ちます。

これを落ちないようにリールから出ているラインに
人差し指を引っ掛けてください。

こんな感じです。

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓



この状態のまま、竿先を中心にして
クルクルとルアーを振り回してみてください。

そうすると、**人差し指にルアーの重さが乗っているのが良くわかる**と思います。

この感覚をロッドを前に振り抜いてラインから指を離すタイミングまで維持し続ける事になります。

自分で指を離すその時まで

指にその感覚が無くなったら

たいていの場合、キャスト失敗に終わります。

では、準備はいいですね？

その感覚を維持した状態、

つまり、人差し指にラインを掛けて

ボールを起こした状態で

自分が狙うポイントに対してまっすぐに立ちます。

この時、リールのハンドルレバーが

下の画像の位置にあるように

するといい感じですよ。



なぜなら、ロッドを前へ振り抜くときに
その力でハンドルが回ってしまう事があるからです。

ハンドルが回ると自動的に
ベールが戻る仕組みになっています。

すると放出されるはずのラインが
急にストップしてしまい、

ラインが切れてルアーだけが飛んで行く事に。

続いて、ココが一番大事。

後ろや周辺に人がいないかどうか
よく確認してください。

先ほどもお話をさせて頂きましたが、

ルアーフィッシングというのは

オモリの付いたトリプルフックに

簡単には切れない糸を付けて

振り回しているのと同じ事。

私からのお願いです。

これだけは**本当に注意してください。**

どうかよろしくお願いします。

では確認が出来たら狙ったポイントに対して

まっすぐロッドを振り上げます。

そして、頭のすぐ後ろあたりで

徐々にバックスイングを止めて下さい。

この時、まだ**人差し指に**

ルアーの重さを感じたままです。

ルアーの重さを感じた状態を維持して、

今度はロッドをポイントに対してまっすぐ振り抜きます。

と同時に、竿先が自分の頭上の真上の位置を通過したくらいのタイミングで人差し指を離します。

するとルアーは前へ飛んでいきます。

そして、この時、この一連の動作を行うときに意識して欲しい事があります。

ルアーフィッシングはキャスト時のスイングの力で
ルアーをキャストするわけではありません。

本来は竿の反発力を使ってルアーを飛ばしています。

その反発力を生み出すために

スイングという動作を使っているに過ぎません。

あなたをご存知無いかもしれないけど

ルアーフィッシング界には村田基氏という、

神的な存在の方がみえます。

この方はほぼ100%、

ロッドの反発力を使ってキャストしています。

私もそうするべきだと思うし、

そうした方が飛距離が出ると体感しています。

これが基本であり、真実なので

常にロッドの反発力でルアーを飛ばすイメージで

練習してくださいね。

今回は分かりにくいので

映像でも解説させていただいています。

下の動画を何度もご覧になって

キャストを習得してくださいね。

<https://youtu.be/WQo3jtOce1c>

【さらにキャスト、サミング編】



ここからはちょっぴり応用編。

シーバスフィッシングで慣れてくると

必然的に多様することになる

サミングという技のご紹介。

【サミング?、フェザーリング?】

一応、ルアーをキャストするという点では

先ほどのオーバーハンドの解説までで終わりですが、

スピニングリールのキャストで

どうしても重要になってくる技術があります。

それは一般的には

サミングと呼ばれている技術のことです。

この技術、

知ってる人は知っていますが

実はスピニングリールで行う場合、

正式な呼び方をサミングとは言わないんです。

正式には**スピニングリールで**

行うものをフェザーリング。

ベイトリールで行うものに関してだけ、

サミングと呼びます。

ですから、これから覚える

あなたはフェザーリングで覚えて

頂いた方がいいですね。

ただ、半分くらいの釣り人は

フェザーリングという名称をしません。

私の場合、今までサミングとって
通じなかった人は会ったことがありません。
そもそも知らない人は別ですが。

フェザーリングとって通じなかったら
サミングと言えば通じるので
こちら覚えておいてください。

【どう、違うのか？】

まあ、どっちもやることは同じです。

フェザーリングとは、キャストした時に
リールのスプールからラインが放出されるのを
指で押さえて抑制する技術の事。

あっ、そうそう、スプールと言うのは
リールのラインが巻かれている部分の部品名です。

いっぽう、ベイトリールの方は
ラインの出を抑制するのではなく
飛行しているルアーのブレーキ的な意味が強いので、
サミングと呼ばれているんだと思います。

スピニングリールはラインが
出すぎるのを防ぐため。

ベイトリールはスプールの

逆回転でラインが出すぎて絡まるのを防ぐため。

やっтерことは良く似ています。

【では、実際にどういうものなのか？】

スピニングリールの話です。

まず、キャストします。

すると**スピニングリールの構造上**

ラインは糸巻きの横から外れて螺旋状に出ていきます。

そう、この糸巻きみたいなのが

スプールと呼ばれるもの。

この横から外れて放出されるラインは、
何の制約も受けずにどんどん出て行きます。

この時です。

もし、**強い横風**が吹いていたら？

・・・。

そうです、何の制約も受けないラインは
風に煽られて横へと飛ばされます。

これが起こると余分なラインが

大量にリールから出てしまいます。

では、なぜそれがダメなのか？

まず、余分なラインが出ていると

ルアーが着水した時にテンションがかかっていない為、

すぐにアクションに移ることが出来ません。

そうすると、ルアーがまっすぐ下に沈んでいって、

ラインテンションがかかり始めてから

不自然に泳ぎ出す事に。

自然界の魚に、この不思議な動きを見せる

魚はあまりいないと思います。

小魚を狙っているシーバスというのは
基本的に、それが離れた場所であったとしても、
下から上を見えています。

ということは、ルアーが着水した
時点ですでに100%気が付いています。

下手をすればガン見してますね。

この状態でそんな怪しい動きを見せれば
3秒で偽物だと気づかれます。

更にもう一つ。

ラインが横に流されると

予想外のものに引っかかったりします。

たとえば、

船と船の間を狙ってルアーをキャストして
見事にコントロールが決まったと思ったら、
ラインが風で横に流され船の上に・・・。

これは良くあることです。

なにせシーバスフィッシングは
そういうところを狙いますから。

こうなると、

- ・ルアーを無くす。
- ・船の管理者に迷惑をかける。

というダブルパンチ。

だって、船の管理者にしてみたら

「おっ、こんなところにルアーが。ラッキー！」

な～んて、**まず思いませんから。**

普通は、

「なんだコリャ？、ルアーを船にぶつけた上に、
しかもゴミ（ルアー）まで置いていきやがって、
このヤロー！」

となるのが自然です。

このようにならない為にも

ラインの出を抑制する必要があります。

こちらも分かりにくいので

映像で解説させて頂いています。

私は手で抑制しますが

別に人差し指だけでも慣れれば可能です。

それでは、動画で御覧ください。

<https://youtu.be/5ja0kzp28kQ>

スプールを完全に抑えるのではなく、

放出されている**ラインに触れて**

抵抗を作っているイメージです。

習得必須の技術になりますので

頑張ってください。

それでは次はリーリング、

どんな感じでリールを巻くのかを見ていきましょう。

リーリング

それではここでは最初にマスターすべき
基本を詳しく解説させてください。

ルアーをキャストした後の**リトリブ**、
つまりルアーを引いてくる時の基本と注意点です。

今後、釣果や上達度に直結してくるので、
しっかりとあなたの技術として

落とし込んで頂けると嬉しいです。

【タダ巻きです】

シーバスフィッシングにおいて
一番よく使われるリトリーブ法は
"タダ巻き"と呼ばれる

最も単純で奥が深いリーリングです。

その名の通り、"ただ巻くだけ"なんですが、
なぜコレが有効なのか？
を知っておく必要があります。

よく、タダ巻きと聞きますが、

まさにただ巻いているだけで
良く釣れる人と、全く釣れない人に
ハッキリと分かれてしまう事が結構あります。

これはタダ巻きの意味を
勘違いして捉えてる人がいるためです。

それでは、タダ巻きというものが
どういうものなのかをガッツリと見ていきましょう。

【意味も何も、ただ巻いてればいいんだろ？】

と、あなたは思ったかもしれませんがね。
ですが、実際はそうではありません。

シーバスアングラの言うタダ巻きというのは、
基本的にこちらからアクションを加えない
受身的な探り方を総称してそう呼んでいます。

つまり、

巻くスピード（テンション）を一定に保つ、
引いてくるレンジを一定に保つ、

という事なんです。

ですが、そもそも

ルアーフィッシングの基本を知らない人に

「タダ巻きでいいよ」「ただ、巻いてくるだけ」

とか言ったところで・・・。

そうですね。

本当にただ巻いてくるだけです。

ですが、実際に基本を知っている人は

このタダ巻き時に

恐ろしいほどの集中力を使っているのを

あなたは知っていましたか？

・・・。

そうなんです。

分かるはずがないんです。

「ただ、巻いてくるだけ」と言われれば

本当に何も考えずにただ巻いてくるのが普通です。

【タダ巻きとは？】

ルアーフィッシングの基本をしっかりと
押さえた上でこちらから変化を加えずに
巻いてくるだけ。

細かく見ていきましょう。

ルアーフィッシングの基本とは
一定のスピードで巻いてくる事。

ですがこれには、あなたがリールを巻いてくる時に

**手に感じる巻きテンションを一定に保つ、
という意味合いも含まれている**んです。

これはルアーを引いてくる時に
あなたの手に伝わってくる**“引っ張られ感”**を
一定に保つということです。

本来はスピードを一定に保っていれば
問題なかったんです。

ですが、ことシーバスフィッシングにおいては、

主に“流れ”が釣りを支配します。

どういう事かというと、
河川であれば解りやすいですが

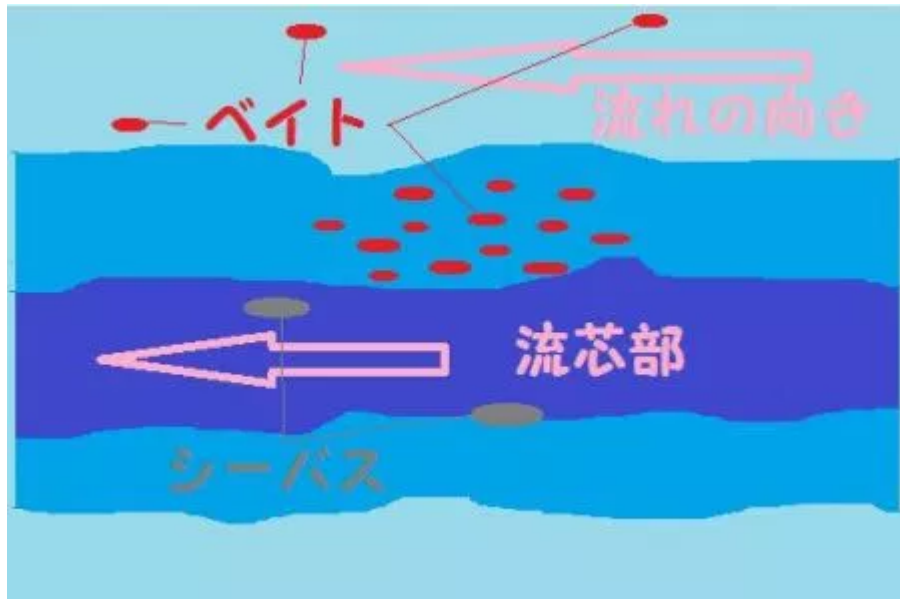
見た目にも水の流れが早いところ
遅いところがあるのが分かります。

シーバスはこの流れの境目をよく狙います。

なぜなら、ベイトである小魚たちが
このポジションに付くから。

この流れの境目は溶存酸素量が多く、
ベイトの餌となるプランクトンが多く発生するし、
流れが早いから餌もたくさん流れてきます。

これをベイトが一段階ゆるい流れの中で
定位して待ち受けるというわけです。



そして、海から遡上するベイトも
岸際か、流芯沿いを通ります。

これは流芯沿いを通って遡上すれば
変なところに迷い込まないから。

遊泳力のない魚を岸際を通して遡上します。

そしてワンドなどに迷い込んで
出口でシーバスに狙われる。

流芯沿いのベイトも流芯を登って来る
大きな魚に狙われる。

世の中、上手くできています。

さて、話が大きくそれたので戻します。

ようするに、**ベイトは**
流れの変化があるところを好むんです。

理由は餌と酸素が豊富だから。

先ほどもお話させて頂きました。

河川は一目瞭然で分かります。

ですが、**港湾部のような**

流れのゆるいフィールドでも

この図式は変わりません。

ゆるいながらに変化はあります。

むしろ、だだっ広い港湾部こそ
この現象は顕著に出ます。

そして、広ければ広いほど魚を探すのは難しい。

コレは分かりますね？

つまり、ただ巻くだけで

闇雲にルアーを投げていても

運が良くなければ釣れないし

上達もしないんです。

では、引っ張られ感を一定に保つ事を意識して巻いているとどうなるか？

ここに全ての集中力を置いていけば
一見して分かりにくい港湾部の**水中に**
流れの流速変化がある事に気がつけるのです。

つまりそれは、

ベイトが集まる場所を知る事が出来るという事。

それは言い換えれば同時にシーバスが
狙っている場所を知ることにもなりますね。

この時点で何も考えずにただ闇雲に

ルアーを投げて巻いているだけの人とは
圧倒的な差がつきます。

そして、この探しだしたデータを
上手く使いこなすには、

**変化を感じると同時にその時水中で
どんな映像が出来ているかを想像しながら
リトリブする事が必要**になります。

なんとなくで構いません。

仮に間違っていたとしても
まったく問題ありません。

**このイメージを何度も何度も描き直す事で
あなたは上達していきます。**

【そして、もう一つの基本】

それは、ルアーを引いてくるレンジを
一定に保つという事。

これはなぜかというと、

自然界の魚は基本的にわけもなく

いきなりレンジを変える事はないからです。

たとえば、温度が変化したとか、

下にシーバスがいる事に気が付いたとか、

日差しが強くなってきたとか、

風邪が強くなってきて表層にうねりが

出てきたなどなど、

確固たる理由が無いと

基本的にはレンジを変えません。

理由は浮袋の圧力調整がめんどくさいから。

これは私の想像ですが、

魚が浮袋の圧力調整をするのは

相当な体力が必要になるのではと考えています。

理由が無いと絶対にレンジを変えませんから。

その証拠に深いレンジから

急浮上させた魚はダメージすら受けます。

なんせ、水圧が全然違いますから。

これに対応するのに相当な体力がいるのだと

勝手に想像してます。

つまり、なにが言いたいかというと

泳層を変えながら斜めに泳いだり

上下にコロコロと泳層を変える魚というのは、

違和感があるのです。

これで多くのルアーは

シーバスに見切られています。

長いスパンでゆっくりと浮上しながら泳ぐ魚。

頭が下に向いているのに何故か水平に泳いでる魚。

20センチ潜ったかと思えば30センチ浮上したり、
また潜ったりを繰り返しながら移動していく魚とか。

ボトムならまだわかりますが、
障害物も何もない水中で
何かに追われているわけでもないのにその動き。

不自然すぎてシーバスが逃げていきます。

ルアーの泳層は

集中して一定のレンジに保ってください。

ルアーにもよるので難しいですが

ルアーの水平姿勢も意識してください。

では、どうやってレンジを一定に保つのか？

まずは**そのルアーに合った**

リトリーブスピードで引く事。

そして、そこを押さえたら次は**ロッドティップ**。

つまり、竿先の位置です。

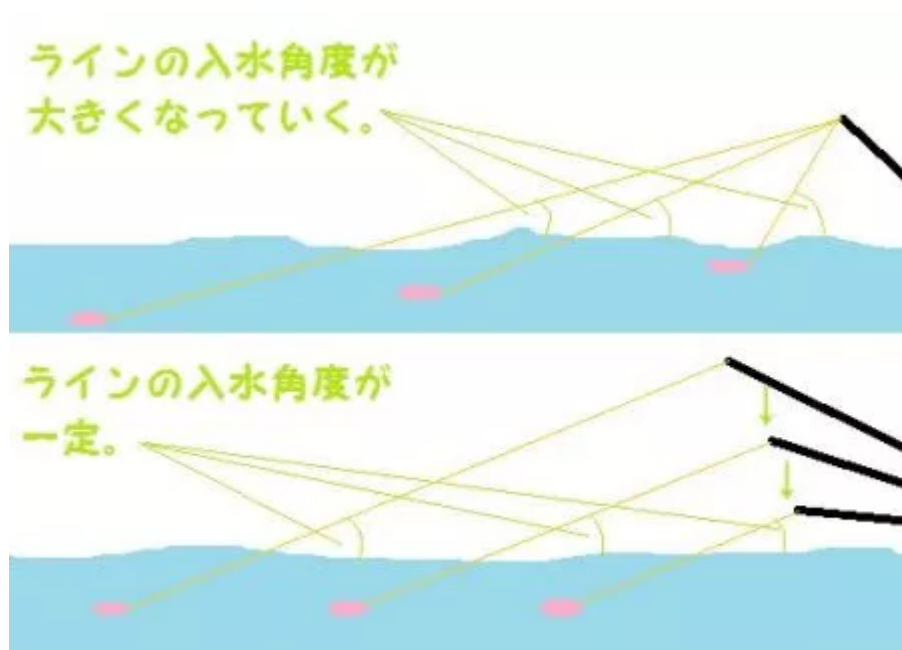
コレをルアーが手前に寄ってくるのに同調して、

少しずつ下へ下げてください。

どういう事かというと、

竿先から出ているラインの入水角度を

一定に保つという事です。



こうする事である程度ルアーのレンジを
一定に保つ事ができます。

まとめますと、

ルアーフィッシングの基本である

- ・一定のスピード（テンション）で巻く
- ・レンジをキープする

というところに集中する。

そして、水中の映像を想像しながらリトリブする。

これらの要素を無意識的に行っているのが釣れる人。

そして、これらの要素をしっかりと押さえて

リトリブするのが

シーバスフィッシングにおける

"タダ巻き"ということです。

まずはあなたもこのタダ巻きを

マスターしてくださいね。

ファイト



さて、ここからはルアーをキャストして
当たりがあったその瞬間からの
いわゆるファイトについて解説させてください。

テキトーにファイトしても釣れるけど
フィールドの状況や魚の大きさ、
タックルへの悪影響を考えると
知っておいたほうがいいです。

大切な一本を捕るためにもね。

【ざっくりと・・・】

簡単に説明するとやることは、

フッキングする。

↓↓↓↓↓↓

ロッドの角度を調整する。

↓↓↓↓↓↓

寄せてきて、取り込む。

以上です。

あとは、フィールドに出て経験あるのみです。

がんばりましょう。

【ふざけんな！ 終わりかよっ！】

って、思いましたね？

悪ふざけが過ぎました。

申し訳ありません。

どうかお許してください。

それではさっそくいきましょう。

まずは、**フッキング**。

ルアーをリトリーブ、つまり引いてくる時に

アタリと呼ばれる

魚からの反応が出る事があります。

細かいアタリもありますが、

まず最初のうちは「ガツツ」と来る

アタリに対して反応してください。

なぜなら、始めたばかりの頃は

微妙なアタリを捕るのは難しいからです。

それに、理想論を言えば、

「釣りにおいてアタリとは出るものではなく出すもの」

です。

ですが、コレはプロの域なので

慣れてきてから挑戦していけばいいでしょう。

リトリブしていて「ガツツ」と来たら

間髪をいれずに**強すぎず弱すぎない程度の**

合わせをいれます。

フッキングと言われる行為ですね。

感じ的にいうと

「シャープに合わせる」

みたいな感じですよ。

この時、大切なのは

フッキングしてロッドに魚の重さを感じたら、

すぐに一度ロッドを下げて竿先を水面に近づける事。

と同時に素早く

魚がかかった場所の状況を観察します。

この時、ロッドの曲がらない部分、

手で持ってるグリップ付近の事です。

この**グリップ**付近の直線と、

魚の方に向いているラインの直線を

直角の状態に保って、

自分のところに寄せてくるまで

魚の動きに合わせて調整してください。



そして、フッキングした場所が
深い場所である場合は
ロッドを立てて魚を寄せてきます。

慣れてくればわかりますが
この時、魚が水面近くまで上がってきたと思ったら、
それに伴ってロッドティップを下げて
水面に近づけてください。

そして潜ったらロッドティップを上げる。

コレの繰り返しで魚を寄せてきます。

では逆にフッキングした場所が

「浅いな」と思った場合。

この場合は竿先、つまりロッドティップを

下げたまま、魚を寄せてきてください。

ただし、ボトムに障害物があったり

岩礁帯で根ズレを起こしてしまう事があるなら

また話は変わってきます。

これは、あなたも聞いた事があると思いますが、

シーバスにはシーバス特有の
“エラ洗い”という行動があります。

釣られたら、派手に水面から飛び出して

頭を横に振る行為で

この時にルアーが外れたり

ラインが切れたりします。

この行動はロッドティップを

水面に近づける事でかなり防ぐことができます。

人によっては状況次第で

竿先を水の中に突っ込むという方もみえます。

どシャローで根掛かりしない

フィールドなんかで使える方法ですね。

そして、フィールドが浅くても
根掛かりが激しいフィールドは
ロッドティップを下げすぎると
根ズレと呼ばれる底の地形にラインが
引っかかる現象で切れてしまいます。

この場合は適度に調整してください。

【そして、先ほどお話ししました】

グリップ付近の直線と、

魚の方に向いているラインの直線を
直角の状態に保って、
自分のところに寄せてくるまで
魚の動きに合わせて調整してくださいと。

画像でも説明しましたね？

この状態を維持したまま、
ロッドティップの位置の調整をして
魚を寄せてきてください。

これはロッドを立てたり、
横に倒したりする事で調整ができます。

何故この角度を維持するのかと言うと、
ロッドの性能を最も活かす事が出来るのが、

この角度だからです。



ロッドというのは、あなたも知っているように
柔軟な弾性を持っています。

この弾性は魚の動きやショックを吸収して、
様々なトラブルを回避するのに役立ってくれます。

先ほどの**“エラ洗い”**でフックが外れるのも
防いでくれますよね。

では、このロッドが少ししか
曲がっていなかった場合。

この時はロッドが余裕で
余分な反発力を持っています。

この状態だとショックを受けた時に過剰に反発して、
戻るときにブレが出てラインテンションが
一瞬緩みます。

ラインテンションとは
ラインの張り具合を示す度合いです。

このラインテンションが一瞬緩んだときに

トラブルが起きます。

では、逆にロッドが限界まで曲がっている時。

これは指摘されるまで気が付きませんが、

限界まで曲がっているロッドというのは

実は棒と変わらないんです。

こうやって言われると分かりますよね？

衝撃を吸収出来ないどころか

それ以上の力が掛かれば

ロッドが折れたりラインが切れたりします。

つまり**グリップ付近の直線と、**

魚の方に向いているラインの直線を

ある程度直角の状態に保つという行為は、

ロッド、ライン、フック、

全ての性能を引き出すのに必要不可欠であり、

シーバスに対して最も有効なファイトの

最大のコツとも言える訳です。

ところが、このロッドの力のバランスが崩れると、

一気に全てのアイテムのポテンシャルを

発揮出来なくしてしまうんです。

【魚を寄せてきたら次は取り込みです】

ここで大切なのは冷静に魚の動きを観察して、

確実に一発で決める事。

ネットを準備して、しばらく魚を泳がせます。

この時、ネットはすでに水の中に入れた状態です。

そして、魚が完全に戦意を喪失した

その瞬間がチャンスです。

この一瞬の隙を見逃さないでくださいね。

ちなみにこの時、ネットを水中に入れていなくて、

「今だ！」と思った時にネットを水中に
差し込むとそれに驚いてシーバスが暴れだします。

あらかじめ、水中に入れてから

チャンスをうかがってください。

基本的には、

シーバスの頭をネットの上に持ってきたら、

ラインテンションをなくすと共に

ネット引き上げます。

ラインテンションをフッと抜くと

魚の頭が一瞬下に下がるので

そこをネットですくい上げます。

以上がタックル性能の
引き出し方の解説でした。

このファイトの基本を知っていれば
本当に貴重な一本を取れる確立が相当上がります。

しっかりと、意識して覚えてくださいね。

しかも、分かる人から見れば

「おっ、あの人は釣りがうまいな」と思われます。

確実にあなたの技術として
落とし込んで頂けると嬉しいです。

ランディング

さて、ここからは先ほどのランディングのやり方をさらに詳しく見ていきましょう。

シーバスに限らず、魚をネットインするときにはコツみたいなものが必要です。

いくつかの注意点もあります。

これはぶっちゃけ、

フィールドに出て実際に経験を積んでみないと上手にならないし感覚が分かりにくいです。

ですが、最初にイメージとして

知っておくことで、

フィールドに出た時にスムーズにコツを掴めるので

詳しく解説させていただきます。

【なぜ、この解説をするかという点】

実は私も駆け出しの頃、

このタモ入れで何度かやらかした事があります。

釣り経験が浅いとやはり

いい魚が来れば来るほどあせりますね。

そして案の定、最後の最後でバラしました。

シーバスをすくったつもりが

見事にすくわれたのはフックが外れたルアー・・・。

そして、後ろからは

「いまのはカウント無しやな？」

の声・・・。

彼は私の釣り仲間である。

マジで悔しいので今のうちに

コツや注意点を掴んでおいてくださいね。

それではいきましょう。

【シーバスを足元へ寄せて来た時、】

実はこの時まだシーバスは

余力を残している事が多いです。

この時、**自分の足元をゆっくりと泳がせながら、**

魚をネットインする隙を伺います。

注意点はあなたが冷静である事と

決して焦らない事です。

まず、**最初にランディングネットを**

水中に差し入れます。

これはネットの部分だけを水没させればOKです。

この水没させたネットを自分のすぐ前に構えて、
シーバスの際を伺います。

シーバスの動きに合わせてロッドを操作しますが、
シーバスの動きに合わせて
自分の身体の向きも同調させてください。

つまり、シーバスのいる方向に
自分の身体とネットを向けながら
微調整してチャンスを待ちます。

シーバスはネットインするときに当然ですが、
シーバス側からは目の前にネットが現れるので

その異物にびっくりして

また、泳いで逃げようとしています。

ですから、余力を残した状態で

ネットインしようとしても結構失敗します。

ですが、よく観察すると

普通に泳いでいるシーバスが横に倒れて

あなたにお腹を見せるタイミングが何度かあります。

これがランディングの絶好のタイミングです。

この状態になったら、

なるべくそのままラインテンションを急激に変えずに

ゆっくりとネットの上へ誘導してください。

この時にグイグイ引っ張ると

それにびっくりして泳いで逃げようと復活します。

ですから、あまりラインテンションを

変えずに誘導してください。

そして、ネットの上にシーバスの頭が来て、

身体が半分ほどネットインしたのを確認したら

ラインテンションを抜きます。

ロッドティップ、つまり竿先を下げて

「フツ」とラインテンションを

完全にゼロにします。

ロッドティップは下げすぎないようにしてください。

こうすると、一瞬だけ

シーバスの頭が水中で下に下がります。

そして、ラインテンションを抜くと同時に、

ネットですくい上げてください。

ここで大切になるイメージは

ネットで魚を追いかけてすくうのではなく、

魚を引っ張ってきて

ネットにぶち込むと言うイメージ。

決してネットで追いかけてはいけません。



魚という生物はその身体の構造上、
前へ進むのに特化した作りになっています。

ですが反面、バックするのは凄く苦手です。

ですから、魚をネットで取り込む時は
頭からネットに入れるのです。

これを逆にすると素早く前へ飛び出せるので、
簡単に逃げられます。



あなたも貴重な一本をのがして釣り仲間から
やじを飛ばされないようにしてくださいね。(笑)

リリースorキープ



あなたは、貴重な水産資源について

どう考えていますか？

ここからは**リリースorキープ**のお話です。

シーバスフィッシングを始めるにあたって、

あなたにも**一度考えてほしい事**です。

ですが、このリリースorキープに関しては

それはもう、**いろいろと考え方がある**んです。

どれが正しいとか、そういった話ではなく

一度シーバスを始めるあなたにも考えてほしいんです。

もちろんこれは、「こうだからああしろ」とか
「こうするべきだ」という話ではありません。

あなた自身が考えて、その上であなたなりの
答えを出して頂ければ嬉しく思います。

よろしくお願いします。

【まず、私としては・・・。】

私の場合は

晩ごはんのスズキの洗いを食べたい時だけ

最初に釣れてなおかつ50～70センチの

シーバスを一本だけキープします。

基本的にはこのスタンスですね。

なぜ、こうしているのかと言うと

まずスズキの洗いは少し手間がかかるけど

非常に美味しい。

だけど洗いにして食べられるのは

せいぜい釣ってから一日程度まで。

だから、持って帰るのは一本で十分だし、

何本も持って帰ったところで

持て余すのが目に見えているから。

そして、基本的には洗いでしか

食べないようにしている。

はじめてスズキの洗いを食べた
時の美味しさが忘れられないから。

さらに、**水産資源として**
考えているところもあるんです。

まず毎年、安定した釣果を楽しみたいし、
釣れない年があると不安になるしね。

かなり繁殖力のある魚だとは思うけど、
やはり**必要以上に捕るのは乱獲**です。

“自分一人くらい”という考え方は
かなり危険ですからね。

自分一人くらいと思ったのであれば、
必ず自分以外にも同じ考えをもつ方がみえます。

そういった方たちが
釣り人の何%を占めるかなんて分かりません。

でも、もし80とか90%だったら
これは**生態系に相当なダメージを
与える**と思いますよ。

これプラス漁師の人が何万トンっていう量を
捕っているんだから。



そしてもし生態系にダメージを与えてしまえば、

それを立て直すには

相当な時間と労力が必要です。

しかもシーバスの養殖はまだ確立されていません。

さらに、**大きい魚ほど産卵能力が高い**という事。

大体ですが、

60センチになると性転換をしてメスになり

産卵能力を身につけるようです。

そして基本、大きければ大きいほど産卵に貢献する。

私が洗いを食べたい時だけ

50～70センチのシーバスを一本だけ

キープするというスタイルは

これらの理由から来ています。

【いろんな考え方がある】

では、一般的にはどんな意見があるのか？

「俺は100%リリースだぜ！」

という方も非常に多いです。

これはフィールドもある程度

関係してますけどね。

湾奥とかは魚が臭うのでほぼリリース派ですね。

ちなみに**リリースとは**

釣った魚の生存確率を出来るだけ高めて

水に返してあげる事。

一方では、

「いやいや、食べるために釣りに行ってるんだ。」

という方もみえます。

ひどいレベルになると、

それを食べるのか？と問いたくなるような
小さな魚もすべて持って帰る人も。

高い費用を掛けて、
たまにしか釣りにこない方に多いです。

また、私のように必要最小限しか
持ち帰らない人も結構います。

このタイプは基本的に
自分のためにしか持ち帰りません。

人におみやげとして頼まれても

「ごめん、俺あんまり釣れないから。」

といって断る人もみえますね。

人の分までキープするのは
乱獲に近いですからね。

だって、欲しいなら釣りに行けばいいんです。

その労力を割かないで
毎回オミアゲよろしくみたいな人のために
貴重な水産資源を乱獲は出来ません。

たま〜に、ごく少量ならまだ分かりますけどね。

これとは逆にたくさん持って帰って、
ご近所さんに配りまくる方もみえるようです。

もちろん、人柄と好意でやってる方もみえますが、

中には釣れた自慢でやってる

方もみえるようです。

貰い手がそう感じるという事は

それが真実でしょう。

さらに、

「いや、そもそも絶対に捕るべきじゃない！

水産資源をなんだと思ってるんだ！」

という方たちも見えるようです。

そして、

「俺達が食べる分なんて

漁師が捕るのにくらべたら微々たるもので、

生態系になんか影響しないさ。」

って方がいたり。

また、

「釣りに来たんだから

持って帰るのがあたりまえだろ？

あんたにそんな事言われる覚えは無いんだけど。」

とか。

【ようは人それぞれである】

では、どうするべきなのか？

どうもしなくていい。

上に例を上げた通り、

人それぞれ考え方があってあたりまえです。

しかもたぶん、

どれも正解だし、そしてどれも間違ってる。

最初に書いた通り、

どうこうして下さいという話ではないんです。

ただ、私は

“人は自然とともにある”と思っています。

でも、人間だけが完全ではないけども

生態系を制御出来る力を持っています。

責任ある存在だと思いませんか？

何度も言いますが

ああしろ、こうしろって話じゃありません。

ただ、あなたも一度自分のスタイルを

どこに置くのかを考えてから、

釣りという行為で自然と対話してほしい。

どんな結論を出したとしても

私はどうこう言うつもりはない。

そういった事柄ではないし、

私にそんな事を言う権限はない。

だけでも、この論争については
一度考えてみてからシーバスフィッシングに
臨んで頂けると嬉しく思います。

よろしくお願ひしますね。

ライントラブルはなぜ起こるのか？



さて、ここからはいよいよ

ライントラブルの原因について

徹底的に見ていきます。

少し長くなりますが、**あなたが快適に**

シーバスフィッシングを楽しむために

とても重要な項目になります。

何度も読み返してしっかりと

理解して頂けたらと思っています。

シーバスフィッシングを始める時に

必ずと言っていいほど壁になるライトトラブル。

糸がらみの事です。

これには非常に様々な原因があり、
ひとつずつ確実に解消していかないと
快適な釣りが出来ません。

非常に難解なため、
主要な原因に絞って解説させてください。

準備はいいですね？

【ラインシステム】

まずはラインシステム、
つまりメインラインとリーダーの
組み合わせからくるパターン。

シーバスを始めるとい事でいちおう
メインラインはPEラインでお話させていただきます。

PEラインを使うとシーバスフィッシングでは
必ずリーダーという短いラインが必要になります。

なぜなら、PEラインは摩擦に弱いために、
引っ張った状態で何かに接触すると

高確率で切れてしまうから。

シーバスを掛けた時に

一番ラインが接触しやすいのは

泳ぎまわるシーバスのすぐ近くです。

ルアーから繋がっているラインが

シーバスの歯やエラブタの尖った部分に接触したり、

障害物に逃げ込もうとしたりするので

それらに接触してラインが切れてしまいます。

そのため致命的な弱点を持つPEラインだけでは

シーバスを釣り上げるのは難しいです。

そこで必要になってくるのが

リーダーというわけです。

リーダーとはメインライン、
つまりリールから出ているPEラインの先に
接続するまったく材質の違う糸の事。

と言っても、フロロカーボンと
ナイロン素材の糸だけですが。

それぞれに分けてお話します。

かなり難解な話になりますが
頑張ってくださいね。

【まずはフロロカーボンライン】

この**ラインの特徴は硬度が高い事**です。

それ故に**糸自体にかなり張りがあり、**

巻きぐせが付きにくく

相当な強度を備えています。

と同時に感度もいいですね。

硬いために**根ズレに強く**

少しくらい障害物にスレた程度では切れません。

メインラインのPEに比べると

まるで棒のような糸です。

もう大体察しは付いていると思いますが、

PEとは極めて相性の悪い組み合わせです。

が、この相性の悪い全く違う者同士をくっつけて相乗効果を出そうと言うのがラインシステムと呼ばれるものですね。

PEは伸びないために**感度が**

非常に優れています。

そして軽くて、**ナイロンやフロロに比べて**

細い状態で強い引っ張り強度を出せるうえに、

ルアーの飛距離が出ます。

でも摩擦には非常に弱い。

コレに、摩擦に強く根ズレで切れにくい
フロロカーボンラインをくっつけるという
いいとこ取りのラインシステムです。

でもフロロで強度を出すには
PEラインよりは太くしなければいけません。

ここで問題になるのが糸の結び目です。

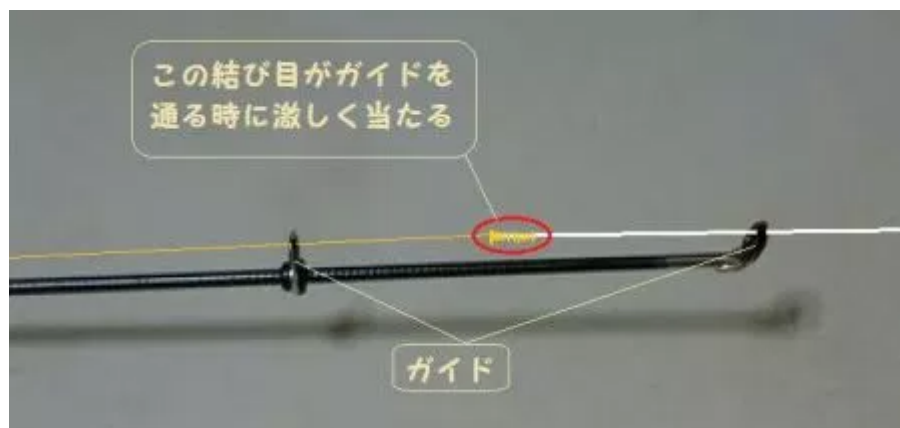
物理的にリーダーが太ければ太いほど
結び目は大きくなりますね。

この結び目がキャスト時にガイドに当たって
弾かれて、リールから放出されるラインの
スピードが減速します。

この減速した結び目をPEラインが

追い越してしまう事で、

結び目付近のライントラブルが起こるようです。



そしてこの結び目は

中心がフロッカーボン資材で出来ています。

先ほど書きました。

フロッコは硬度が高いと。

硬度が高いという事は、

弾性が強いという事です。

つまり、フロロで出来た結び目は

ガイドに接触した瞬間に

最も強く弾かれる事になります。

要するにトラブルを起こした時の

重傷度が高いという事です。

これについての対策は

結び目を小さくする事です。

それには、

- ・フロロの時は出来るだけ細いリーダーを使う。
- ・リーダーを折り返さない
- ・FGノットなどの摩擦系ノットを使う。

という手段があります。

ノットとは結び方の事です。

【では次にナイロンライン】

ナイロンはフロロカーボンに比べて

非常に硬度が低く、柔らかいです。

そして、**かなり伸び**ます。

それ故にアタリも衝撃も手元に伝わりにくく、

その分**ショックに強い**です。

アワセ切れを起こしにくいリーダーですね。

そして、弾性が弱いので

フロロの結び目に比べてガイドに

当たった時にあまり跳ね返りません。

つまり、フロロカーボンよりは

トラブルを起こしにくいです。

しかし強度が弱く、

若干ですが太いリーダーを

使うことになりますね。

明らかに見た目に分かるほどの

太さの違いを出す必要は無いですが。

同じく**摩擦系ノット**でいけます。

フロロと違って柔らかく、

結んだ時にPEラインがナイロンに食い込むために

すっぽ抜けがまず起こりません。

FGノットになれるまでの練習にもいいです。

綺麗にむら無くFGノットが

出来るようになってから

フロロにチャレンジするのも

いいかもしれません。

ラインの重量ですがフロロカーボンよりは軽いです。

伸びるので当たりやフィールドデータなどが
手に伝わる衝撃から読みにくいです。

最終的には美味しいとこどりの
PE+フロックにしたほうがいいですね。

**どちらのシステムにも言える事ですが、
リーダーを必要以上に長くしないというのが
対策のひとつ**です。

1メートルから一ヒコ程度に
押さえておいたほうがいいです。

一ヒコとは両手を目一杯広げた長さの事。

以上、ラインシステムから来る
ライントラブルの原因と対策でした。

まだまだ終わりではありません。

次は**ロッドとキャストから来る**
ライントラブルについて解説させてください。

【ロッドとキャストによるもの】

少し前のキャストの項目でルアーを飛ばす時に
どんな力を使ってキャストしているのかを

お話させて頂きました。

その時、**ロッドの反発力を使って**
ルアーを飛ばすと説明しました。

この時のロッドの**スイング具合**、
つまりロッドを前へ振り抜く時に
竿尻を持つ手を手前に鋭く引き込んで
反発力を生み出すという一連の動作なんですが、
スイング具合、つまり**ロッドを振る時の感覚**ですね。

これは実は**あなたが使うロッドによって**
全然変わります。

前回のバイブルで、ロッドの調子に関して

お話させて頂いてますが、

“2：8の先調子”とかいうヤツですね。

このロッドの調子や弾性などによって

キャスト時のロッドさばきの感じが違ってきます。

この感覚をあなたに覚えて頂くんですが、

使うロッドによってまったく違うので、

やりながら覚えて頂くしか方法がないんです。

ロッドによって、

キャスト時に絡みやすいものも有りますが、

コレは別に**ロッドが悪いわけではない**んです。

その**ロッドによって扱い方が違うだけの事。**

ざっくりと説明すると、

キャスト時の各スイングのスピードで
調整してください。

まずはバックスイングのスピードを変えてみる。

基本的には早過ぎると絡みやすいです。

そして前へ振り抜く時のタイミングと

指を離す時のタイミングを微調整してください。

このとき、ルアーが竿先に

ぶつかってしまう事があり、

竿先が折れてしまう事があるので

徐々にスイングスピードを上げながら試して下さい。

これらの細かいタイミングが
ライントラブルの原因である事もありますが、
割合的には低いです。

ライントラブルというものは
いろんな要素が折り重なって
発生している場合が多いです。

いろんな可能性を考えて
改善して行ってくださいね。

ちなみにバックスイングが原因の時は
バックスイングを使わなければ上手くいきます。

あらかじめロッドを後ろへ構えて

ルアーをぶら下げた状態からキャストする方法です。

コレをやってみても変わらない

というのなら他にも原因があります。

そして、バックスイング無しだと

ロッドの反発力を生むために

かなりの瞬発力が必要になるので

キャスト時の疲れがひどくなりますね。

ですから、ロッドに合った

バランスの良いキャスト法は

覚えていく必要があるんです。

コツとしては竿先の方だけではなく、

ロッド全体の反発力を使うように意識して
ルアーをキャストする事。

そして **ロッド、ライン、ルアーを一つの物体、
つまりムチを扱うような感覚で操作出来れば
どんなロッドでもたいていは大丈夫**です。

【実はルアーも原因のひとつ】

ルアー自体が悪いという事はほぼ無いんですが、
中には**飛行姿勢が安定しないルアー**があります。

空中で回転したり、失速したり

カーブが掛かったりするルアーですね。

キャストに慣れるまでは

まっすぐ気持ちよく飛んで行くルアーで

練習した方がいいかもしれませんね。

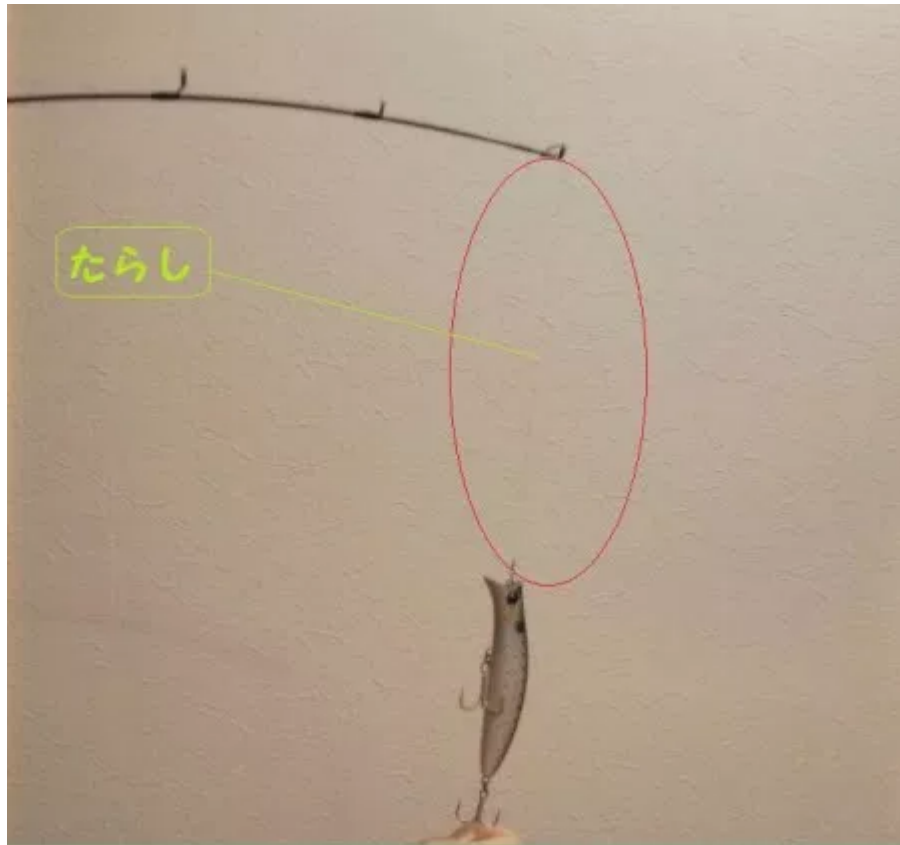
さらに、実は**ルアーの重量**にも関係しています。

コレも基本として

覚えておいてほしいんですが、

キャスト時のラインの**“たらし”**

というものがあります。



この長さを適正に保つ事。

この"たらし"は基本的には

重いルアーほど短くして、

軽いルアーほど長く取ったほうがいいですね。

鉄の塊みたいな奴は

10から50センチくらいで。

人差し指にラインを引っ掛けた状態で

あまり指に重量を感じないような

軽いルアーは80～100センチくらいです。

もっともまわりの状況やキャスト方法によっても

変わってくるので、あくまでも目安ですが。

そしてそもそも指に重量を

まったく感じないようなルアーをシーバスタックルで

キャストするべきではないですね。

この“**たらし**”の感じも

実釣しながら掴んでいってくださいね。

最後にこの“たらし”とリーダーについてですが、

私は場合によってはリーダーの結び目を

ガイドに通すタイプなんですが、

リーダーの長さを短めにして

結びこぶがロッドのガイドを通過しないようにして

そもそも結び目自体が

キャストの邪魔にならないように

釣りをする方法もあります。

この場合はメインのPEラインを

1号以上にすると安心です。

なぜなら、**リーダーをキャストに
干渉させないという事はキャスト時に
最も摩擦力の掛かるトップガイドに
PEラインを引っ掛けるという事。**

ここまで私のブログを読んできた
あなたならPEラインの最大の弱点を
よく知っているはず。

**どちらのパターンで行くにしても
かなり高性能なガイドが必要だと
言う事はわかりますね？**

結び目を通せば安いガイドなら
傷が付いて使えなくなる。

通さないならば滑りと熱伝導率に
優れた高いガイドでないと
キャスト時に発生するPEの摩擦と
摩擦熱でラインが切れます。

リーズナブルなものならSiCガイドがおすすめ

さらに、通さないなら毎キャストごとに
リーダーの付け根のPEライン、
キャスト時に圧力が掛かる場所です。

ここに根ズレみたいな
症状が起きていないか確認したほうが得策です。

両方を試してみて

あなたに合ったほうを選んでくださいね。

次はラインによるものの解説をさせてください。

【PEラインも原因のひとつ】

SEA BASS PE POWER GAME

TORAY

シーバス PE パワーゲーム

用途：メインライン

素材：PE

対応釣種：シーバス

巻糸量：150m

カラー ホワイト



ラインカラー



**直強力・感度・耐久性の全てにおいて
他の追従を許さない!**

シーバスフィッシングにおいて

必ずといっていいほど必要になる**PEライン**。

出た当初は**ありえない細さ**で

ありえない強度を出す事で

話題になった**ライン**です。

もちろん今もいろんな釣りに使われていて、

完全に主流の**ライン**になっている。

PE、ナイロン、フロロカーボンとありますが、

トラブルが一番少ないのは

今もナイロンラインです。

そして、**PEラインが一番デリケートで**

トラブルが多いラインだと私も思う。

使い出した当初は私も

何度も何度もライントラブルに悩まされた。

「あ〜、もういいや。」とって

タックルを片付けた事もけっこうある。

でも今はほとんどそんな事はない。

結局、何度も経験を積んで

使い方を覚えていくしかないんだけど
起こる物事には原因というものがある。

それを知っておく事で
早くPEラインを使いこなせるように
なって頂けると嬉しく思います。

【なぜ、PEラインはトラブルが多いのか？】

その原因は**構造と特徴**にあります。

PEラインというのはいくつかの細いラインを
編みこんで作ってある。

よ〜く見てみるとロープみたいになっているのが分かるので一度確認してみてください。



これの何がダメなのかと言うと、
表面の形状が複雑になってしまうという事。

ナイロンやフロロは目に見える感じでは
ツルンとしている。

でもPEラインはそうではない。

むしろ表面は凸凹。

そして、この表面からはさらに細かい
目には見えないくらいの繊維が出ている。

こんな状態だから**摩擦力が強く働いてしまう。**

と言うのは私の勝手な想像です。

それはさておき、

これがPEラインが摩擦に弱い理由だと思います。

摩擦に弱いというのは

言い換えれば摩擦力が強くはたらくという事。

だから結び目が摩擦熱で切れやすいんです。

ロッドのガイドなどにラインを通してみると
スルスルと滑って、一見摩擦が少ないように
思えますが実際はそうではないようです。

そして、編みこんで作っているために
引っ張り強度が強く、通常のラインよりも
遥かに細い直径で同じ、又はそれ以上の
強度を出すことが出来る。

この細いという特徴が
利点でもあり、欠点でもあるんです。

どういう事かというと、
リールと言うのはスプールに

糸を何重にも巻き取る機械です。

想像してみてください。

スプールに巻き取られるラインが
細ければ細いほどラインとラインの間に
巻きとったラインが食い込みやすい
というのはわかりますね？

ルアーをキャストしてリトリブしてくる時に、
ラインを巻き取るテンションが少し緩んだだけで、
そこだけ巻きがゆるくなって
上から巻かれたラインが食い込みます。

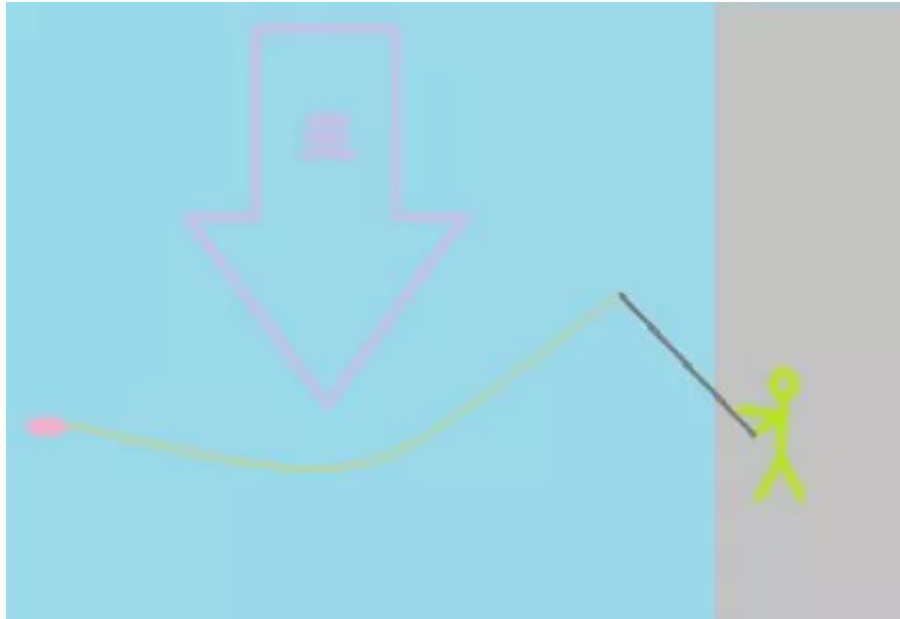
そしてこの状態でキャストをすると
食い込んだラインがその強い摩擦力で

周辺のラインを一緒に引っ張ったり、
切断したりします。

このラインのゆるみというのは
いろんな事が原因で起こります。

たとえば、キャスト時に
風が強いとラインが大きく横へ流されます。

このときラインは大きな弧を描き、着水します。



この余分に出たラインを巻き取ると、
今度はルアーのテンションがラインに掛かり
途中から巻取りのテンションが
変わってしまいます。

さらに、ボトムを取る時も同じように
ルアーが着底した瞬間に張っていたラインが
フッと緩んで弧を描きます。

コレをそのまま気にしないで

巻き取っても同じ事が起こりますね。

あとはリトリーブの時に

ルアーにアクションを付けて引いてきた時。

さらに、**ルアーチェンジをした時。**

重いルアーから、軽いルアーへ。

そして軽いルアーからまた重い

ルアーに戻したような時。

こういった事で、

ラインを巻き取る時のテンションに

変化が起こります。

【では、どう対応するか？】

まず、リトリーブを開始する時の
ラインテンションに気を付ける。

これはリトリーブの直前に
ロッドを使ってラインのたるみを
取り除いてから引き始めるという事です。

ロッドを引いたり起こしたりして
ラインをらせん状ではない
真っ直ぐな状態にするという事です。

そして、リトリーブに関しては
これから始めるあなたは**出来る限り**
タダ巻きを使ってください。

タダ巻きとはルアーにこちらから
アクションを加えずに
一定のスピードとテンションで巻いてくる事です。

実は変にアクションを加えないほうが
シーバスは釣れます。

なぜなら基本的には捕食が下手な魚だから。

特に激しく速い動きを連続で使うと
シーバスがなかなかルアーを捕まえられません。

ライントラブルがなくなるまでは
タダ巻きで十分だし、
実はタダ巻きしか使わない人もいます。

そして、改善法としては
定期的にラインの巻き直しをしてください。

この方法はまずルアーを
フローティングタイプのルアーに交換します。

そしてやんわりと遠くへキャストします。

そうしたら、その状態から
ラインを自分の手でスプールから出します。

この時、**風向きに注意して下さい。**

しっかりとラインが巻かれている

ところまでラインを引っ張り出します。

およそルアーの**通常飛距離分**です。

それが出来たら、リールのベールを戻して

出ているラインを軽く指で挟んで

一定のテンションを掛けながら

ラインを巻き取って下さい。

この一連の作業をするとき、**手が出したラインが**

絡まらないようにフローティングのルアーを

流れに乗せて流してやるといいです。

これで巻き直しは完了です。

これはリールのスプールから
ゆるんだラインが見えている
時の対処法にも使えます。

以上、ライントラブルの様々な原因について
お話させて頂きました。

ここは何度も何度も釣行して
覚えてくださいね。

七転び八起き系、

歯、食いしばり系ですが、頑張ってください。

パターン各種

シーバスフッシングにも

その地域、季節によって

パターンというのがあります。

これから始めるあなたへ贈る

四季折々のパターン解説。

四季の移り変わりとともに

簡単に解説させてください。

では、さっそく。

【まずは産卵期から】

シーバスフィッシングは具体的な釣り方とともに
このパターンを知っていないと
効率よくシーバスに出会う事は難しいです。

そんなわけで一通り、私の住んでいる
伊勢湾奥を基準に1年間の季節の流れとともに
ざっくりとお話させていただきます。

ですが、もちろん地域によっては
これから説明するパターン以外のものも
存在しますし、その時期にも若干のズレがある
というのは当たり前の事なので、
あくまで参考程度に捉えて頂き
そこからあなたのホームのパターンに
当てはめていってくださいね。

<12~2月>

いわゆる厳寒期ですね。

この時期は**シーバスの産卵期**になります。

シーバス達が産卵のために

深場へと移動していきます。

ですが、これはすべてのシーバスが
一気に移動するわけではありません。

気が向いたシーバスから順番に
移動を開始します。

そして、産卵を終えれば
餌を求めて戻ってきます。

つまり深場へ移動する個体もいれば、
産卵に関係の無い浅場に残るシーバスもいます。

そして、入れ替わり立ち代わりに
産卵場へ向かうため、

絶えず深場と浅場の両方に

シーバスがいる事になります。

釣る方法としては

シーバスの産卵場所を探すことです。

沿岸部でも水深があって

風浦になるような場所なら

産卵場になっている事があります。

コレを見つけられれば冬は安泰です。

いっぽう浅い場所では

潮の流れがあるにはあるけど

そんなに水は入れ替わらない、

風浦になっていて水温変化が少ない、
と言った場所の底の方に
張り付いている事が多いです。

<アミパターン>

12～5月くらいの期間で

アミと呼ばれる**3センチ前後のエビが発生**します。

動物性プランクトンみたいなもので、

河川や港湾部などのいろんな場所で湧きます。

バチと同じくシーバスが追いかける事無く

簡単に食べられるために、

産卵後の体力回復に欠かせない

ベイトになっています。

汽水域や河川で大量発生しやすく

大体の地域で始まるのは年末と3月頃なので

このくらいの時期になったら

アミパターンの可能性を

考えたほうがいいでしょう。

シーバスフィッシング的には

バチパターンが始まって

少し経ってから本格的に始まる

難易度の高い厄介なパターンです。

ルアーで問題なく釣れますが

レンジをキープしてポイントへ流しこむ

という釣りになります。

ルアーとしてはナイトレイドや

トラビスなどが有名ですね。

クリアカラーやアミカラーなどが良く反応します。

シーバスの居場所が特定できているのなら、

リアクションバイトでも釣れるので

バイブレーションでも大丈夫です。

ただし、アミに付いているシーバスを
探さないとダメですけどね。

<バチ抜けパターン>

早いところで2月くらいから始まります。



あなたは釣り餌のイソメやゴカイを
知っていますか？

**ああいう足が何本もあるような
虫を多毛類というのですが、
あれらを総称してバチと呼びます。**

このバチは普段は地中に身を隠して生活しています。

ですが、この時期になると産卵のために
大潮の満潮時の夕方に地面から
抜けだして水面まで浮上して産卵します。

これをシーバス達が狙います。

アミと同じく追いかけて食べる必要が無いために

産卵後の体力のないシーバスにとって

大事な餌です。

このバチ抜けには特徴があり、

早い時期は河川から先に始まって

それが落ち着いて間にアミなどのパターンが入り、

そうこうしている内に

港湾部のバチ抜けが始まります。

ここで、一つ大切な事を覚えておいてください。

産卵後のシーバスが

まず一番最初に向かうのは、河口部です。

なぜなら、アミやバチなどの

簡単に食べられるベイトが大量に流れてくるから。

河川の水は冷たすぎて遡上は出来ないので、

河口部の海水エリアにたまります。

<マイクロベイトパターン>

アミパターンも

このマイクロベイトパターンに入ります。

そして、ここでいうマイクロベイトとは
主に魚系の稚鮎やハクのことです

ハクとはボラの稚魚の事。

3～6月がこれらのルアーで

表現しにくい小さなベイトが大量に発生します。

シーバスタックルでキャストできる

ルアーサイズでは大きすぎて

なかなかマッチ・ザ・ベイトに

持っていくことが出来ません。

そのため小さなルアーやメバル用の

ワームなどが使われる事が多いです。

ですが、**ルアーによっては対応が可能です。**

ポイントは**波動が小さいルアーをチョイスすること。**

そして、**喰わせるレンジに集中すること。**

アミ同様にリアクションバイトでも

釣ることは可能です。

<イカパターン>

同じく**3~6月に小さなイカ達が**

キャストの届く範囲に近づいてきます。

これをシーバス達が狙うんですが
パターンの存在自体が
分かりにくいために、気がついたら
見逃してしまっているパターンです。

海中をじっくりと観察してみましょう。

よ〜く見ると小さな小さな
イカ達が発見できる事があります。

そして、**コレとは別に**
ヒイカと呼ばれるイカがいます。



私の地域では12月下旬に接岸するイカで

この頃にはちいさなエギを持った釣り人たちが
港が賑わいます。

このヒイカも実はしっかりと
パターンとして成立します。

時期は非常に短いですが、

コレにはランカーサイズが付いていることが多く、
絶対に外せないレアパターンです。

私はやる気スティックかサスペンドルアーで

攻めますね。

サスペンドルアーとは

水中でリールを巻くのを止めた時に、

ほぼ水と同調して

浮きも沈みもしないルアーの事です。

<イナッコパターン>

4~11月はイナッコと呼ばれるベイトが

パターンに加わります。

イナッコとはボラの幼魚の事で

このベイトは他のベイトに比べて

フィールドにいる期間が長いです。

そのため、シーバスの主食とか
米みたいなものだとか言われてます。

マイクロベイトのハクもボラの稚魚なので
ボラというくくりで言えば厳寒期以外は
このベイトが居ることになるんですね。

そして、厳寒期には水温の高いところに
20から30センチほどのデカイボラが居ます。

主食と言われるわけです。

つまり、ボラを表現したルアーは
シーバスフィッシングをする上で
外せないものになります。

ルアーにはボラカラーとか言う

ボラによく似た色のルアーがたくさんあります。

もちろんカラーは重要です。

ですが、**ルアーのカラーと言うのは**

あくまで補助的な要素になります。

この補助的要素が無ければ釣れない

シーバスと言うのはたくさんいるので凄く重要。

でも、シーバスがルアーの表現している

魚種を判断する基準は、

実はカラーよりも

そのルアーが出す波動なんです。

ルアーの出す波動は食材、

カラーは調味料だと考えて頂いて大丈夫です。

このことを頭に置いておいてください。

<イワシパターン>

水温が低い時期は沖の方にいるんですが、

水温が上がってくる**6月になると**

沿岸部にイワシが接岸します。

いろんな魚に追われて

砂浜にイワシが打ち上げられているのを

見かけるのもこの時期ですね。

6月のあたまくらいに外洋のサーフなどで見られ、
8月くらいには湾奥などでも
見られるようになります。

そして、**地域によっては寒い時期、
12月前後でもフィールド次第で
大量にイワシが入ってベイトになっている
パターンがわりとあります。**

イナッコやサッパ、アジなどのパターンに
イワシが混ざって
さらにベイトの特定が難しくなります。

**これらのベイトパターンを
ルアーのアクションの種類や**

ボディの太さ、大きさ、カラーを使って

表現していくわけです。

イワシパターンの場合

だいたい目に見えるナブラになっている時が

多いのでベイトの特定はしやすいです。

やりにくいのはイワシがいるのに

イワシを食べていない時。

こういう時は体高のある

バイブレーションなどを選んで

ルアーのフラッシングでアジやサツパなどを

表現してやると釣れることがあります。

<ハゼパターン>

9~11月、イワシの回遊が乏しい地域は

このハゼがメインベイトになることが多いです。

でも実はこのハゼパターン、

初夏くらいから他のパターンに混ざってきます。

昔はバイブレーションや

シンキングペンシルを使っていました。

ですが、時代の流れがローリングベイトという

素晴らしいルアーを作り出しました。

まあ、作り出したのは

メーカーや制作に関わった人ですが・・・。



ともかく、ハゼパターンに

このローリングベイトが加わって

私もオイシイ思いをさせて頂いています。

<落鮎パターン>

鮎の遡上が多く、鮎釣りで有名な河川では

落鮎パターンが成立します。

あなたは鮎を食べた事がありますか？

美味しい魚です。

この魚の美味しさ、

どうやらシーバスも分かるらしく

落鮎や稚鮎がいるときは他のベイト

そっちのけでアユを狙うことが多いです。

実は**シーバスの大好物**なんです。

ベイトがアユかもしれないと思ったら、

迷わずこのパターンで狙ってみましょう。

フィールドは河川です。

基本的に稚鮎に関しては流芯部の表層、
又は岸際を遡上していきます。

これに潮目やブレイクラインなどの
複合要素を絡めてパターンを組み立ててください。

落鮎は流れの変化のある場所、
しかも速い流れが遅くなる場所で
シーバスに待ち伏せされています。

瀬からの落ち込みや、
細い流れが大きくなる場所などです。

<サヨリパターン>

実はサヨリを食べている時があります。

9~12月ですね。

このパターンもイナッコ、イワシ、

ハゼ、落鮎、コノシロパターンと

時期がかさなって見分けるのが難しいパターンです。

釣れなくてサヨリの可能性がある時は

やたらと細いミノーや

サヨリカラーのミノーを投げてみましょう。

クネクネと泳ぐルアーなんかもいいですね。

サヨリは他のベイトと比べて

泳ぎ方に特徴があるので、

水中で出る波動が違います。

ですから、**にょろにょろ**なんかを
投げると釣れる事があります。



このパターンの肝はシーバスが
どこでサヨリにバイトしているかを見極めることです。

じっくりとシーバスの動きを観察しましょう。

<コノシロパターン>

このパターンは分かりやすいです。

10～2月の寒い時期で

居る時はだいたいコノシロが

跳ねているので分かります。

河口部が狙い目ですね。

このパターンは単純に

ルアーのかさと波動のかさで勝負です。

一番大きいミノーか

ウォブリングアクションの強いルアー、

又はバイブレーションを使ってひたすらアピール。

ルアーの飛距離が必要になる場合が多いです。

このベイトもランカーサイズの

シーバスが付いている事が多いパターンですね。

さて、ざっくりと解説させていただきました。

参考程度に知っておいてくださいね。

シーバスという魚は偏食性が強いために、
このパターンというものが成り立ちます。

「食べるものが偏ってくれるなら楽じゃん。」

と思うかもしれません。

ですが、これがまた

なかなか一筋縄ではいきません。

なぜなら、どのパターンの時期も

だいたい複数のベイトが混在するから。

つまりその時、

どのベイトを食べているのかを

特定するのが難しいんです。

でも**ベイトを制する者は**

ルアーフィッシングを制します。

もちろん場所や釣り方も大切ですが

ベイトパターンもまた

シーバスを釣る上で重要な要素になります。

パターンからフィールドや

釣り方を読める場合もけっこうあります。

釣れない時はベイトパターンから
釣りを組み立てていってくださいね。

同じ星に住む者として



あなたは、

この地球上に住む生物、もしくは動物でもいい。

彼らに出会った時に

一度でも心のそこから美しいと

感じたことはあるだろうか？

私は何度もある。

ここからはそんなお話です。

シーバスの技術ではないので

気が向いたら最後までお付き合い頂きたい。

【とある、河川での釣り】

少し、昔話を。

そう、あれはたしか8年くらい前の事。

私はとある河川を訪れた。

そこはそんなに大きな河川ではない。

でもその地域ではまあまあ有名な

地元シーバスアングララーなら

ほぼ知っているようなフィールドである。

ちょうど霧が出始めるくらいの時期。

その地域はそんなに霧が出るような

エリアではなかったが、

その日は珍しくうっすらと朝もやが

幻想的な世界を作り出していた。

「今日も冷えるな。

こんな朝っぱらから一人でウェーダーで

水の中に立ち込むなんて、

バカじゃねーのか？ まったく。」

「しかも、何気に寒いし！」

などと、ひとり突っ込みを入れながら

私はウェーディングシーバスを楽しんでいた。

そこは全体的に水深が浅く、

大潮の干潮時には干上がってしまうようなフィールド。

底は砂が多いが少し泥が混じった砂泥底である。

潮はたしか、大潮の前の中潮まわり。

ちょうど下げ潮が効き出すのが

朝のマズメ時と重なる潮まわりである。

少しマズメには早かったので

あまりポイントを荒らさないように

アイマのカームを使って

ユルい下げ潮のなかを静かに流していた。

すると、時折コツっという感触が。

「ん？、当たりか？ 微妙すぎるな。

これじゃ、あわせても乗らないな。」

という感じ。

そして、しばらく様子を見ていると

今度は一瞬だけラインが張る。

「ん？、今、ラインが動いたような・・・？」

でも、ロッドを持つその手に感触はない。

「うん、居るな。」

次はラッキークラフトの

ワンダーに変えてみる。

「マズメ時になるまでは
ミノーは使いたくないからな。」

しかし、これは反応無しである。

そうこうしている内に
うっすらと空が見えはじめてきた。

辺りもだんだん明るくなり
距離感が正確につかめるようになってきた。

「よっしゃ、時合いだ。」

次のへなちょこドリフトで
正確に流芯部をとらえる。

すると一瞬だけワンダーが引っ張られる感触が。

「ん～、合っていないな。

だいぶ、流れが効いてきてる。」

ここでリード リバードに

ルアーチェンジ。

少しだけアップクロスでキャストして

ラインテンションの調整に

命をかけて流芯部へと流し込む。

ガツン!!

「うっしっ！」

貰ったと思ったら、一気に形勢逆転。

強烈な下げの流れに乗って猛然と海の方へ。

「ヤバイな。」

・・・、

「あっ、そこはダメっ。」

などと、声だけ聞いたら

誤解を招くようなセリフを放つ。

そうして、何回かロッドをのされそうになりながら
やっとランディング。

そこは陸から結構離れていたの
計らずにそのままリリース。

感じ的には75センチ前後のようだった。

そう、まさにこの時
水の中から上がってくるシーバスが
朝もやや薄暗さなどが手伝って
まるで雑誌の写真で見るかのよう。

思わず、

「すげえ〜！」

と一言。

あのシーバスは美しかった。

【あなたはこんな体験をした事はあるだろうか？】

あんな美しい生命が

この地球上にはたくさん住んでいる。

なにもシーバスに限った事ではない。



美しい鳥たち、猫などの小動物。



あなたにも感じて欲しい。

彼らの美しさを。

自然の美しさを。

私はこういった自然を
これから未来を創っていくであろう子供達に
出来るだけ長く伝えていきたい。

現在、温暖化やゴミ放置など社会問題によって
自然のリズムが狂い始めていると私は感じる。

海釣りをしている方は
なんとなく感じているはず。

始めたばかりのあなたは
ともかくとして、海のサイクルが
少しずつ遅れているような気がする。

そして、毎年の魚影の安定感の無さも。

**そう、シーズナルパターンが
おかしいのである。**

普通はだいたい読めるもの。

だけど最近は何年ちがう。

**紫外線なども明らかに強くなっていて
外にいるのが苦痛なほどに
なりかけてますよね？**

もちろん、地球を守るなどという
大それた話ではありません。

ただ、**自然を慈しむ心を**

今の子供達にもっと育ててほしい。

釣り場のマナーにしてもそう。

中には平気でゴミを捨てていく方も

いつまでたっても見かけます。

場合によってはその捨てたゴミが

美しき生命を奪うこともあるんです。

ただ、これはあなたに自然を守って欲しい

と言っている訳ではありません。

落ちてるゴミを拾って欲しい

とか言う話しでもないです。

**私はただ、自然や生命と
もっと対話して欲しいんです。**

**そうして、自然を慈しむ心を
これから未来を創っていく
多くの子供達に伝えて行ってほしい。**

そう、
同じ地球(ほし)に住む者として。

最後までお付き合い頂き

ありがとうございます。

あなたや未来の子供たちが

シーバスフィッシングという最高の遊びを

ずっと先まで楽しんで頂けるように

願いをこめて、このクソ長いバイブル、

Zero, start, sea bass fishing bookを

書かせて頂きました。

私は釣りから未来を変える。

このバカげたビジョンを本気で描いています。

そんな頭のおかしい私から

最後にあなたに贈る言葉はもちろんただひとつ。

グッドラック！

良い釣りと人生を！